学校施設の耐震化及び耐震診断結果の公表について

1　「構造」欄に「RC」とあるのは鉄筋コンクリート造を、「S」とあるのは鉄骨造をいいます。

2　「区分」欄に「旧基準」とあるのは新耐震基準施行（1981年（昭和56年））以前に建築されたものを、「新基準」とあるのは新耐震基準施行後に建築されたものをいいます。

3　（1）「新基準」との表示のあるものは、耐震性がありますので、「区分」欄から右の各欄は、すべて「—」となっています。

（2）「旧基準」との表示のあるもののうち、改修済みのものについては、「改修年度」及び「改修後」の「Is値」及び「q値」（後述）をそれぞれの欄に揚げてあります。

4　（1）「優先度調査」は、正確には「耐震化優先度調査」といい、学校の設置者が、どの学校施設から耐震診断を実施すべきか、その優先度を検討することを主な目的として実施するもので、優先度の高いものから順に、①から⑤までランク付けをすることとなっています。

（2）「第一次診断」は、個別の建物の耐震性能を簡略に評価する診断方法です。

（3）「第二次診断」は、個別の建物の耐震性能を詳細に評価する診断方法です。

「第二次診断」を実施した年度並びに「Is値」及び「q値」（後述）を、それぞれの欄に揚げてあります。

5　「Is値」（構造耐震指標）は、建築物の耐震性能（地震に対する安全性）を数値化したもので、その値が大きいほど耐震性能が高いことを表します。

文部科学省は、第二次診断等により算定したIs値が０．７以上の場合を、「耐震性がある建物」として取り扱っています。

6　「q値」（保有水平耐力に係る指標）は、地震による水平方向の力に対して建物が対応する強さを表すもので、その値が大きいほどよく、１．０以上が目標値とされています。

※　耐震診断は、２階以上の階を有し、または述べ面積が２００㎡超の非木造建物を対象としています。（ただし休校・休園は対象外です。）

２００９年（平成２１年）３月１日現在

学校名	建物名	棟		建築年度	構造	階数	面積	区分	耐震診断結果							改修後		
									優先度調査		第一次診断		第二次診断					
		番号	枝番				(㎡)		診断年度（平成）	ランク	診断年度（平成）	Is値	診断年度（平成）	Is値	q値	改修年度（平成）	Is値	q値
笠置小学校	教室・管理棟	１４	1	昭和58年	RC	3	1，958	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	屋内運動場	１７	1	昭和60年	S	3	867	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		１７	2	昭和60年	S	3	205	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
笠置中学校	普通特別教室棟	1	1	昭和50年	RC	3	1，075	旧基準					16	0．47	1.76	19	0．75	2.63
	特別教室棟	1	2	昭和50年	RC	3	489	旧基準					16	0．47	1.76	19	0．75	2.63
	管理特別教室棟	1	3	昭和50年	RC	3	1，134	旧基準					16	0．52	1.93	19	0．71	2.63
	屋内運動場	5		昭和51年	RC+S	2	750	旧基準					16	0．32	0.50	20	0．88	3.10
	柔剣道場	6		昭和63年	S	1	224	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—